

## セッション4 モニタリング

---

### 21. ポータブルエコー MUS-PO301 の使用経験

○鈴木 雄太 (スズキ ユウタ)<sup>1)</sup>、安部 貴之<sup>1)</sup>、石森 勇<sup>1)</sup>、村上 淳<sup>1)</sup>、花房 規男<sup>3)</sup>、  
峰島三千男<sup>2)</sup>、土谷 健<sup>3)</sup>

東京女子医科大学 臨床工学部<sup>1)</sup>、東京女子医科大学 臨床工学科<sup>2)</sup>、  
東京女子医科大学 血液浄化療法科<sup>3)</sup>

---

**【はじめに】** 当院では超音波診断装置（エコー）を利用し VA 管理やエコー下穿刺を行っているためエコーの使用頻度は高くなっている。このエコーは様々なメーカーから販売されており機能も様々である。

**【目的】** 今回、株式会社フジキン社製エコー MUS-PO301（以下 MUS-PO301）を使用する機会を得たので報告する。

**【方法・結果】** 当院でエコーガイド下穿刺を日常的に行っているスタッフ6名が穿刺練習用ファントム（深さ5mm・血管径5mm）に MUS-PO301 を用い短軸法・長軸法にてエコー下穿刺を行った。

短軸法で6名中1名で穿刺針先端が模擬血管後壁に到達し、長軸法では6名中2名が到達した。長軸法の2名のうち1名は短軸法で後壁に到達したスタッフで、いずれも画面上に穿刺針が描出された時点で後壁に到達していた。

**【考察】** 短軸法では1名以外が問題なく穿刺可能であった。長軸法では2名が穿刺針描出時には後壁に到達していた。その原因として depth 設定が25mm 時には、プローブ端から約10mm が画像として描出されないため、穿刺角度によっては穿刺針の描出時点で後壁に到達したと考えられた。

**【結語】** MUS-PO301 は短軸法ではエコー下穿刺に使用可能だが、長軸法で使用する際には depth の設定に注意が必要である。